歷史寫眞
大正二年創刊
第二百二十五號
昭和七年 二月號
滿州事變
特輯號
第四卷
歷史寫眞第二百二十五號

表紙繪と口繪

――表紙繪――

◇飛行機の出動準備

昨年九月、滿洲事變突發直後より我が陸軍飛行機は常に勇敢なる活躍振りを示し或は敵狀偵察に、或は軍の通信聯絡に、又は敵陣地及び部隊の爆擊に、終始偉大なる功蹟を擧げ來つたのであるが、就中去る十一月中旬、我軍が大興、昂々溪方面に於て黑龍江軍を擊攘したる際、我飛行機は敗走する敵を空中より追擊し是に爆彈を投下して多大の損害を加へ、さしもの梟雄馬占山をして再び起つ能はざる底の大打擊を與へたるが如き、又十一月下旬より十二月に亘りての北滿、南滿各地に於ける兵匪馬賊の討伐に際し、屢々零下數十度の酷寒を冒して偵察爆擊の任務に就きその都度多大の效果を收めたるが如き、更に十二月下旬多門師團室師團の部隊が南北呼應して錦州に迫りたる際、寡兵能く敵の大軍を潰走せしめたるもの、その戰功の大半は實に是等空中の勇士に依て占めらるべきものであるといふも敢て過言ではないのである。表紙の寫眞は十二月初旬奉天飛行場に於て北寧線方面の兵匪討伐に向はんとする我偵察飛行機に今や爆彈を積み込まんとしつつある光景である。

――口　繪――

◇便衣隊を逮捕す

支那で厄介なものは便衣隊である。便衣隊は東北軍憲の命を受けて巧みに奉天其他の都市に入込み、我が兵や巡警等の眼を掠めて良民を襲擊したり、鐵道其他の建築物を破壞したりするのであるが、彼等は一見普通の地方人と何等異るところのない服裝をしてゐるので、兎もすれば是を見逃がし彼等の爲めに計らざる危害を蒙ることが尠くないのである。寫眞は十二月初旬の一日奉天城內に於て發見逮捕したる數名の便衣隊を我が兵營に拉致しつつあるところである。

◇第〇師團派遣部隊の閲兵

十二月初旬、大阪第〇師團の衞生部隊に對し、滿洲へ出動の命令下り、同十三日愈々出發することとなりたるに就き、隊長妹原少佐以下出動部隊一同は、十二月十二日午前十時大阪大手前の廣場に集合、師團長阿部中將の閲兵と一場の訓示を受けた。寫眞は當日の光景である。

◇我軍の夜營

昨年九月、奉天、南嶺其他に於て我軍の爲めに掃蕩せられたる張學良麾下の東北軍は其後兇暴無殘なる兵賊と化し、而も錦州政府の支配下に彼等相互間巧みに聯絡を取りつゝ各地に出沒して掠奪暴行を敢てし、傍ら我軍の行動を妨害すること頻りなるを以て、關東軍は遂に斷然意を決し十一月下旬より一齊に是等兵賊の大討伐を敢行することとなつた。寫眞は十二月上旬、我〇〇守備隊の一部隊が三頭堡方面に襲來したる兵匪討伐に向ひ、敵前に於て篝火を焚き夜營しつつある有樣である。

◇名和長重の忠誠

（小早川好古畫伯筆）

元弘三年三月、春將に徂かんとする頃である。去年の春、王政恢復の鳳圖空しく破れて、後醍醐天皇には北條高時の爲めに隱岐の國に遷され給ひ、一とせの間を憂悶の裡に過させ給ふたが、近頃諸所に義兵を擧ぐるもののある由聞召され、一夜、六條忠顯を具して島を逃れ出で、巧みに追手の船を避けて伯耆の國名和の港にお着きになると直ちにその近くに住む名和長年の許へ勅使を遣はされ、

長年の武勇かねて上聞に達せし間御憑みあるべき由を仰せ出さるる也。憑まれ候べくや否や速に勅答申すべし。

とお傳へ遊ばされた。其時長年は一族と共に酒宴を催してゐたが、勅諚を承つて默考してゐると、舍弟小太郎左衞門尉長重は躊躇もなく進み出で

我が一門忝くも一天萬乘の君に憑まれ申す。たとへ屍を軍門に曝すとも名を後代に殘すことは生前の思ひ出、死後の譽なり。今は唯一筋に忠勤を抽するより外はなし。

と。兄長年を始めとして一族二十餘人皆その議に同じた。玆に至て長重は

我は是より湊へ赴き、主上を迎へまゐらせて直ちに船上山へお供申すべし。

とかたへの物の具取る手も遲しと出で發つたので、座に連つた一族の中、五人の者共、鎧を取つて投げ掛け、高紐締めて共に濱邊へ走せ向つた。

何しろ不意の出來事とて御乘物とてもなく、長重は鎧の上に新しい薦を卷いて主上を負ひ奉り、鳥の飛ぶが如く一散に船上山へと馳け登つたのである。

圖は長重今や一族五人の者共と湊へ馳せ向ひつつある情景で、筆者は故實研究畫家として名聲高き京都の小早川好古畫伯である。

至誠一貫

関東軍司令部

本庄中将

滿洲事變特輯

敵前夜營の我軍

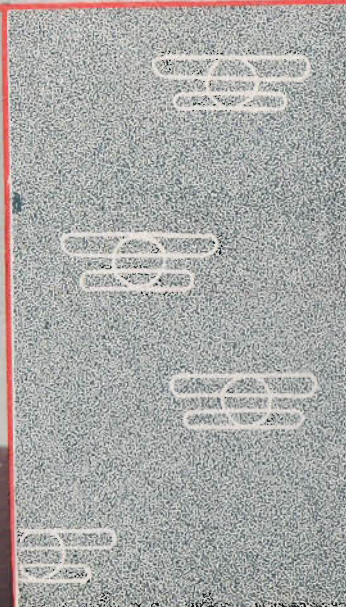
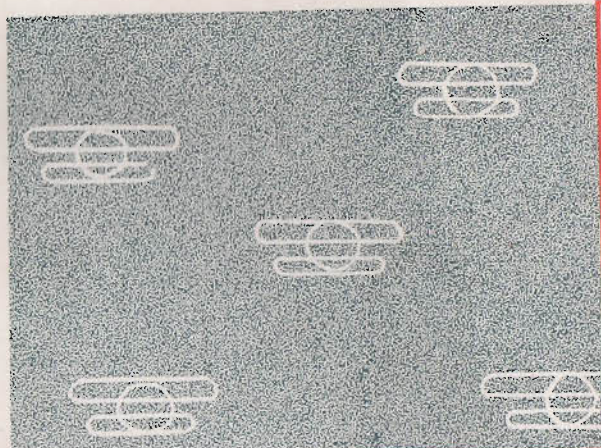
一面坡方面兵匪討伐に向ひたる我軍敵前に於て夜營しつゝある有様

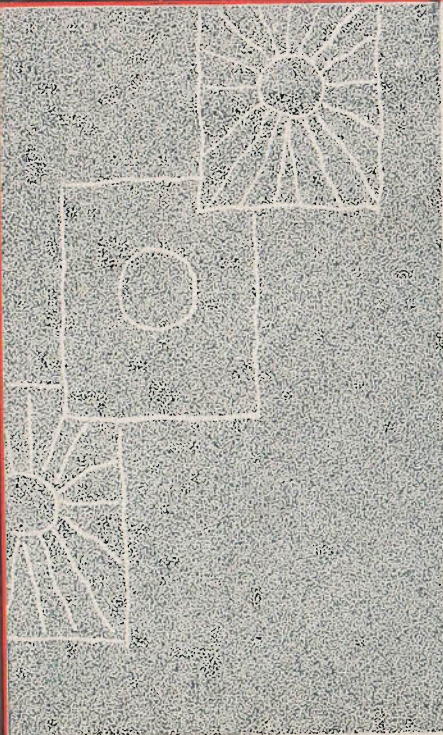
◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆（其一）鐵路を守る獨立守備隊

滿洲に於て我軍の爲めに掃蕩せられたる支那敗殘兵は今尙ほ群を成して匪賊と化し、巧みに錦州正規軍と氣脈を通じ各所に出沒して我軍の行動を妨害する一方、民家を襲ひて掠奪暴行を擅まにするので、我軍に於ては十一月下旬以來全力を擧げて兵匪討伐を行ふこととなつたが、その頃より滿洲は氣溫頓に下降し、氷點下三十度以上を示すこと珍しからず、此の酷寒を冒しての軍の行動は實に艱苦を極むるものがあつた。寫眞は四平街附近に於て鐵道守備の重大なる任務に就く我が兵等である。

滿洲事變寫眞（其二）我が飛行機の活躍

大正三年日獨戰役の際、我が軍用飛行機の二三は青島戰に使用されたが、それらは孰れも單に敵狀偵察に用ひられたに過ぎず、空中攻撃などいふことは到底なし得ない程度の極めて幼稚なものであつた。然るに今回の滿洲事變に際しては、我等は寡兵を以て常に敵の大軍に當らねばならないので、空中よりするその攻撃は殊更偉力を發揮するものとなり、各地の戰鬪に於て我が飛行機の活躍は實に目覺ましくその都度敵に對して莫大なる損害を與へたのであつた。寫眞は奉天〇〇飛行場に於ける我空軍の狀況で、右上はその出動準備、右下は機關銃の手入れである。

◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆（其三）軍用犬と軍用鳩の活躍

『來るべき戰場は滿洲である』といふことを常に念頭におく我が陸軍に於ては、日頃から寒氣に堪ゆる軍用犬の養成に力を盡しつつあるのであるが、今回の滿洲事變に際し此の軍用犬は實地に使用せられ屢々偉勳を樹てたのである。殊に寒氣に强い是等の軍用犬は零下三十幾度の酷寒に處して毫しもその活動力を減殺せらるることなく終始勇敢に任務に就き係り官を驚歎せしめた。寫眞の左上は我が〇〇守備隊の軍用犬で左**エス**號右**ド**號が將に敵陣地に向はんとして命を待ちつつあるところ。又軍用犬と共に今次の事變に偉大なる功績を樹てた軍用鳩の働きも忘れることは出來ない。寫眞の右は戰地に於て今や任務に就かんとする軍用鳩班の活動である。

◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆(其四)塘沽に於ける我が警備

十一月二十六日夜、天津の支那軍は突如我が兵營西方地區より重砲を以て射撃を行つたので、我が駐屯軍は止むなく是に應射し、事態甚だ容易ならざるものがあつたが、翌二十八日に到り支那側は沈默し、我が損害は極めて輕微なものであつた。然し軍部に於ては是を重大視し、居留民保護の爲め塘沽在泊中の驅逐艦『〇〇』及び『〇〇』より天津に陸戰隊を派遣することとなり、〇〇大尉以下〇〇〇名は卽日上陸、各部署に就き、同時に驅逐艦『〇〇』を新たに塘沽に急航せしむると共に巡洋艦『〇〇』を〇〇〇より北方方面に巡航せしめ、警備の萬全を期することとなつた。

寫眞は十一月二十九日、塘沽に於ける我驅逐艦警備の狀況である。

滿洲事變特輯

便衣隊の逮捕

十二月二日奉天城内に於て逮捕せられたる便衣隊

滿洲事變

（其一）

山海關附近の偵察

十二月初旬、山海關、秦皇島方面は支那兵と便衣隊との横行愈々甚だしくなつたので、細川守備隊長は植野派遣隊長と同道附近を視察して萬一に備へた

滿洲事變

（其二）奉天新政府

前遼寧省政府主席臧式毅氏は、豫て奉天省民の推擧に依り地方維持委員長の職に在る袁金鎧氏との諒解成り、十二月十五日新たに奉天省長に就任、即日事務引繼を終つた。寫眞の右上は新省長臧式毅氏、又下段は新しく生れた省政府本廳である。

滿洲事變

（其三）

鈴木旅團のチチハル入城と第二師團戰死者慰靈祭

（右）

十一月下旬、我軍主力のチチハル撤退と共に萬福麟部下の三千、同地を奪回すべく行動を開始したので、關東軍は同三十日鈴木旅團の出動を命じ同旅團各部隊は奉天を出發三日朝チチハルに入城した。寫眞は入城當日の鈴木旅團長（中央）と幕僚。

（左）

事變直前まで遼陽に司令部を置いてゐた第〇師團は各地の戰鬪に參加して勇戰偉勳を樹てたが十二月二日までに於ける同師團の死傷者數は四百三十六名、其內戰死者の數は百餘名である。寫眞は十二月初旬遼陽白塔公園に於ける同師團戰死者慰靈祭參列の小學生

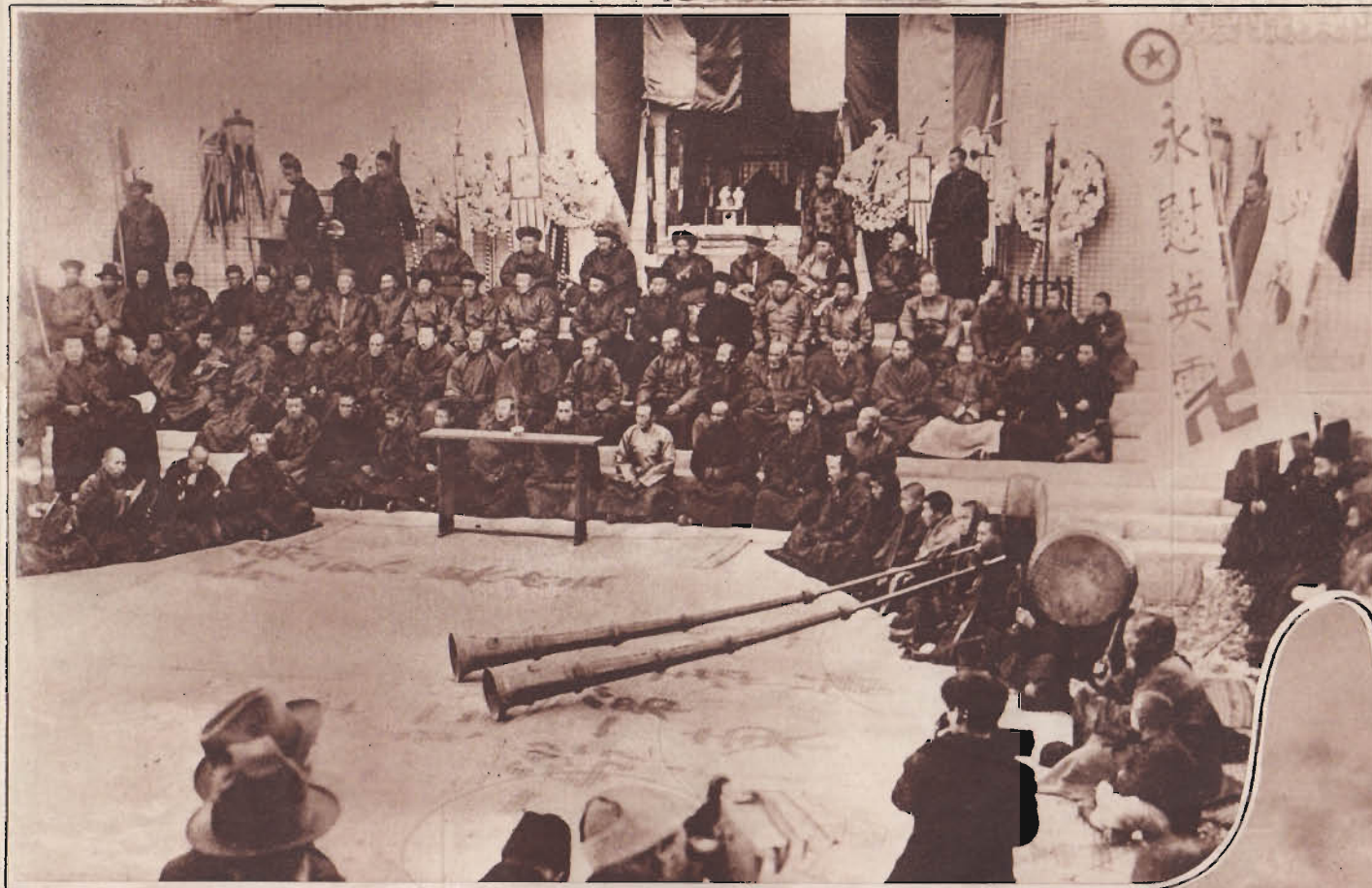
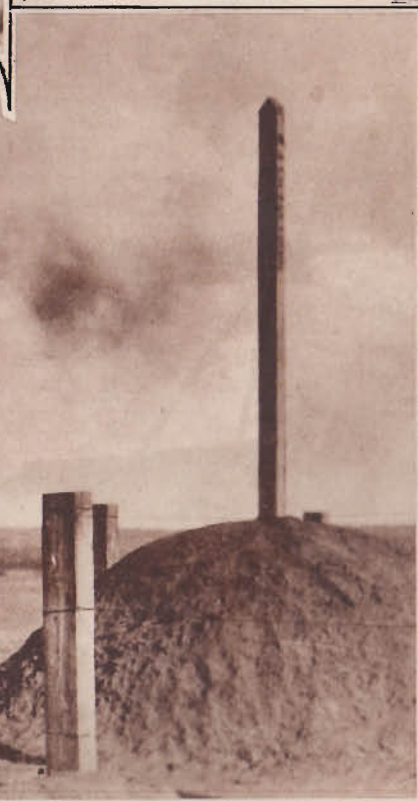
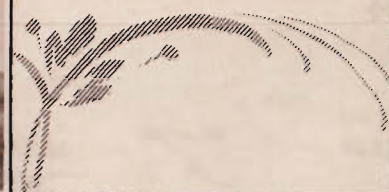
滿洲事變

（其四）我軍の占據したチチハル南大營

（右）昂々溪、三間房方面の激戰に黑龍江軍を粉碎した我が第〇師團は、十一月十九日隊伍堂々**チチハル**城内に入城し、示威行進を行ひたる後、敵の殘したる南大營に入り、市内の各機關を占領して治安維持に當ることとなつた。寫眞は卽ち兵營に入りたる我軍である。

（左）十一月十七日以來、黑龍江軍と激戰を交へたる我軍は破竹の勢ひを以て敵を壓倒し、同十九日早朝早くも敵の根據地たる**チチハル**に入城した。寫眞は我軍の占據した同地南大營の光景。

滿洲事變

（其五）戰歿者の弔靈と喇嘛僧の慰靈祭

（右）チチハル出動を命ぜられたる鈴木混成旅團長は、その途次大興に於て新發田旅團戰歿者の靈を弔つた。寫眞は墓前に禮拜する鈴木旅團長以下幕僚である。

（左）奉天七寺の喇嘛教僧侶達は十一月二十九日、這次の事變に於て戰歿したる日本軍將士の忠靈塔前に集り、いとも厳かなる慰靈祭を行つたが、物々しい長旗や、作り物、異様な樂器を吹奏しての供養振りは一奇觀で、是を見んとする多數の見物人押寄せ非常な賑ひであつた。

滿洲事變

（其六）我軍の一部が無殘全滅の跡

（右）十一月十八日大興東北の一部落に於て歩兵第〇〇聯隊經理官一行十名が三百名の黑龍江軍に襲はれ全滅したる跡である。

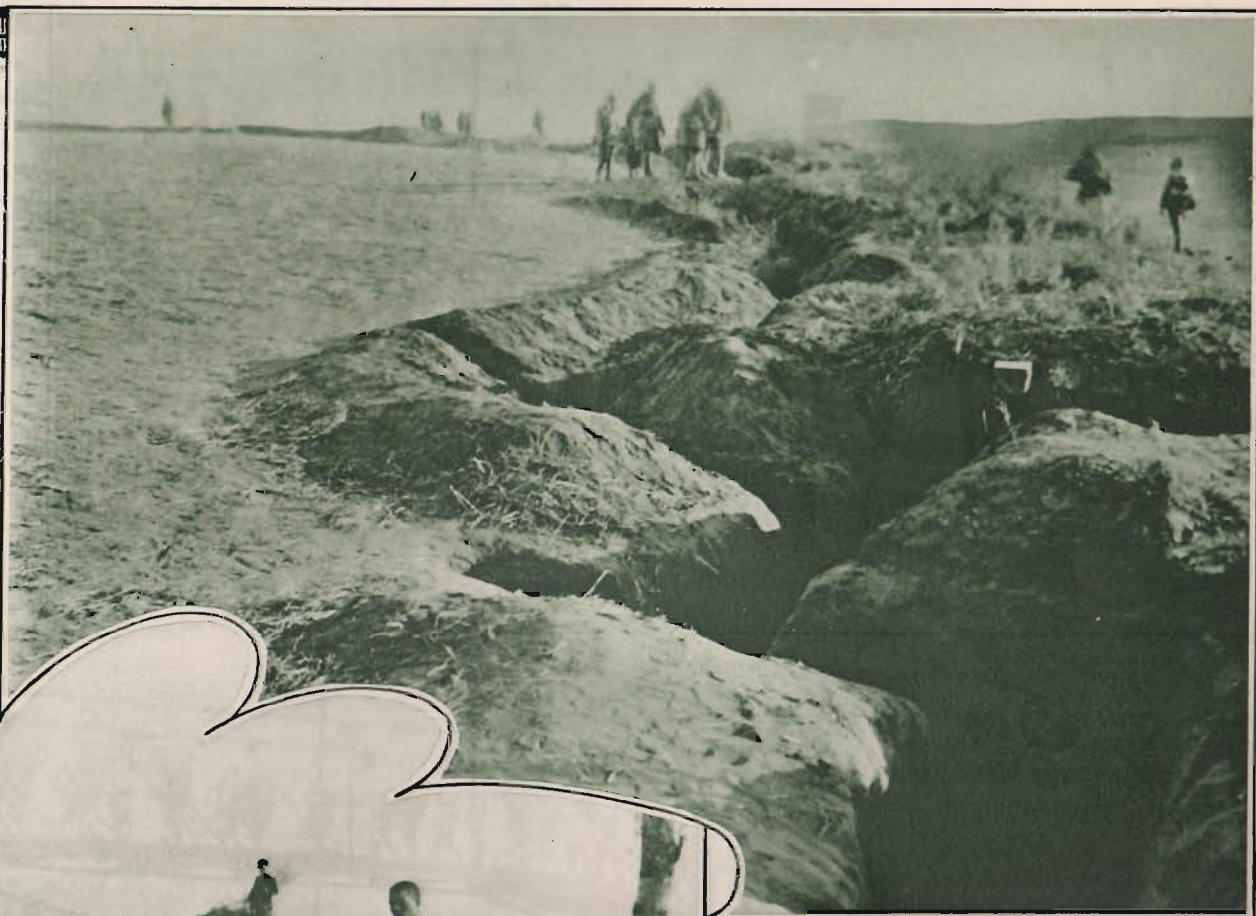
（左）僅か十名の經理部員は三百名の大敵に當り、厚き土塀の支那家屋に據り應戰大に力めたが敵が急に迫撃砲の一齊射撃を開始するに及び、家屋は崩壊し續いて火を放たれ、後藤一等卒一名を殘して其他は無殘にも悲壯な最期を遂げた。寫眞は現場に棄されたる兵器其他である。

滿洲事變

（其七）

支那軍の陣地と我が散兵壕

（右）

十一月十八日昂々渓三間房方面の激戰に於て敵は堅固なる陣地に據り極めて勇敢に應戰した。寫眞は卽ちその陣地である

（左）

十二月初旬、山海關、秦皇島方面の支那兵漸く兇暴の態度を示し來りたる爲め我が細川山海關守備隊長は、居留民保護の重任を負ひ兵營の周圍に防禦陣地を敷き悲壯なる決意を示した。寫眞は卽ち同守備隊に於て散兵壕を掘りつつある有樣である

滿洲事變

（其八）山海關出動の先發隊と香椎司令官の閲兵

（右）十二月初旬山海關秦皇島方面漸次險惡となりたる爲め天津駐屯部隊の一部は同方面に向つて出動した。寫眞は其先發隊天津出發の光景

（左）天津の形勢惡化の爲め急遽關東軍より派遣された緊急編成の○○大隊は十二月一日朝、英租界埠頭に上陸、歩武堂々ヴイクトリア街より佛租界を過ぎ日本租界に入り、宮島街を行進して我が總領事館前廣場に集合、直ちに香椎司令官の閲兵を受けた。寫眞はその光景

滿洲事變

（其九）驅逐艦上の防備と塘沽の警備司令官

（右）十一月二十六日天津に於ける日支兩軍の衝突と共に我海軍は塘沽在泊中の驅逐艦『○○』及び『○○』より陸戰隊を同地に上陸せしめ、同時に驅逐艦も亦非常警備の任に就くこととなつた。寫眞は塘沽に於ける驅逐艦『○○』の防備振りである。

（左）塘沽在泊中の驅逐艦『○○』及び『○○』の二艦は十一月二十六日天津に於ける日支兩軍の衝突以來海上より同方面を警備することとなつた。寫眞は驅逐艦上にて左は警備司令官小林少佐。右は『○○』艦長澁谷少佐である。

滿洲事變

（其十）

我が野砲の送輸と
錦州砲兵營の鳥瞰

（右）張學良配下の別働隊を潰滅せしめんが爲め十二月中旬北寧線より〇、〇方面に輸送せんとする我軍の野砲である。

（左）張學良は錦州に大兵を集中し、又、各地に別働隊を放つて我軍の行動を防害し、機を見て一擧に奉天を奪回せんと企てゐるので、今や錦州を中心とするその方面には數萬の大軍が備へられてゐる、寫眞は我が偵察機より撮影したる錦州の支那軍砲兵營である。

滿洲事變

（其十一）

山砲の手入と迫擊砲の演習

（右）

山海關方面、支那側の對日惡化は益々甚だしく我守備隊に於ては日夜嚴戒、武器の手入れに餘念がない。

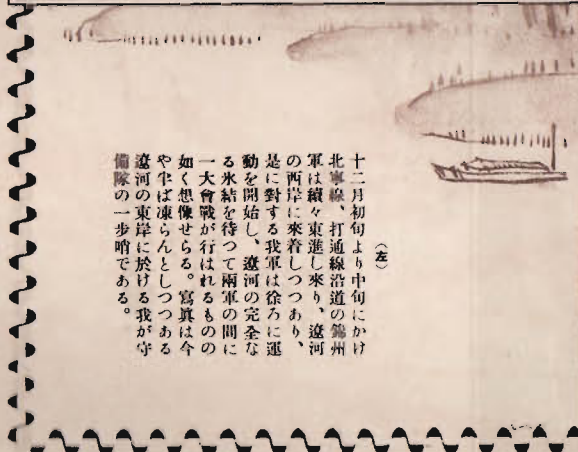
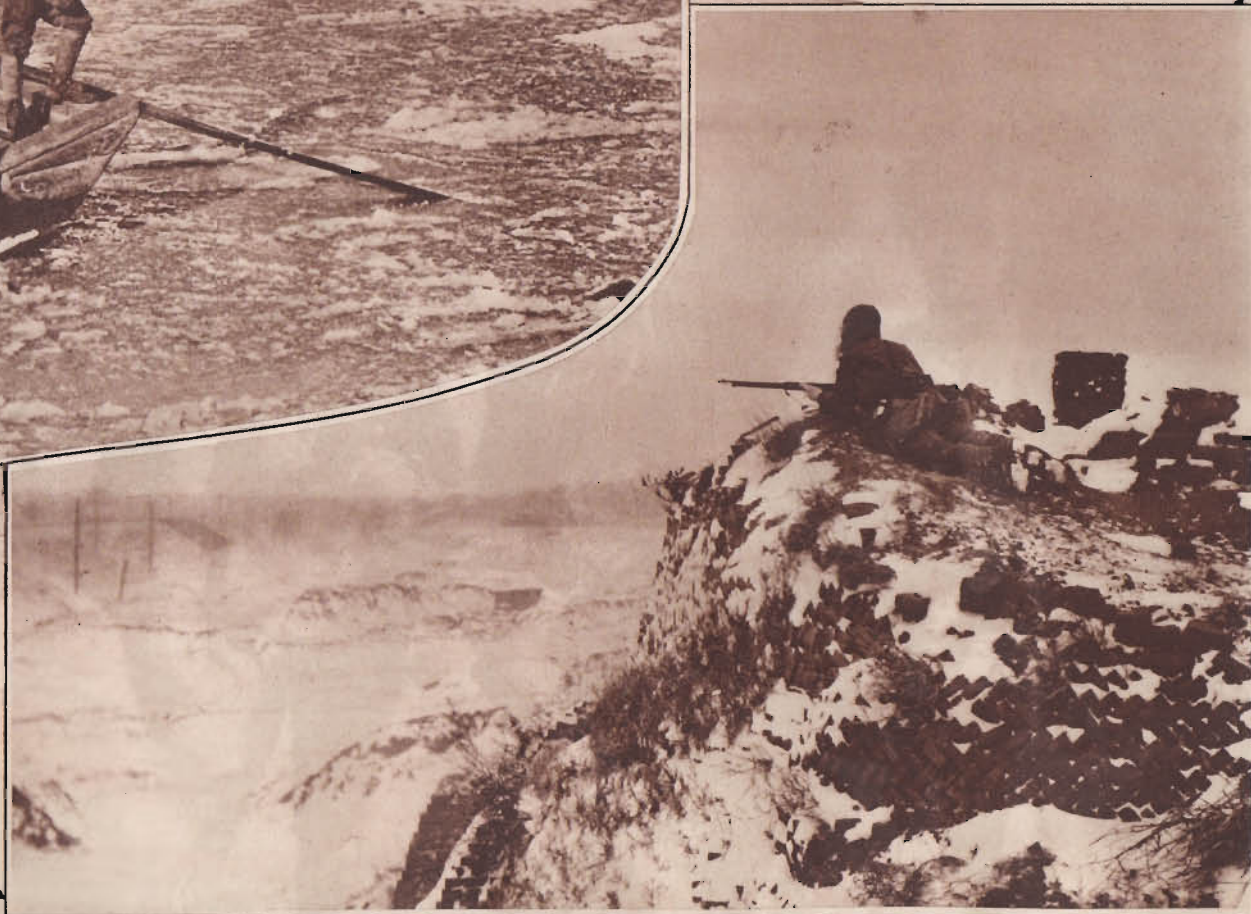
（左）

山海關方面對日空氣益々惡化し、支那官憲は海岸に派兵して日本人の上陸を警戒すると共に日本人に對し屢々敵對的不遜行爲があるので、我守備隊に於ては何時なんどき非常事の突發するやも圖り難きを慮り準備をさ〳〵怠りない。寫眞は同隊に於ける迫擊砲の演習である。

滿洲事變

（其十二）

嚴寒を冒して活躍する我斥候と歩哨

（右）張學良の操る對日救民救國軍と名づくる兵賊團約一萬、多數の武器を擁して滿鐵沿線に移動し來りし爲め關東軍は愈々是が討伐を決行することとなり、潜伏斥候は凍れる雪を冒していまや連日敵狀視察に出動してゐる。

（左）十二月初旬より中旬にかけ北寧線、打通線沿道の錦州軍は續々東進し來り、遼河の西岸に來着しつつあり、是に對する我軍は徐ろに運動を開始し、遼河の完全なる氷結を待つて兩軍の間に一大會戰が行はれるものの如く想像せらる。寫眞は今や半ば凍らんとしつつある遼河の東岸に於ける我が守備隊の一歩哨である。

滿洲事變（其十三）

燒かれた牛心臺驛と客車警備の支那巡警（右）

滿洲に於ける馬賊兵匪の跳梁は日を逐うて甚だしくその勢力も却々侮り難いものがある寫眞は安奉線の東牛心臺驛が馬賊の爲めに襲撃せられ、跡方もなく燒拂れた光景である

（左）

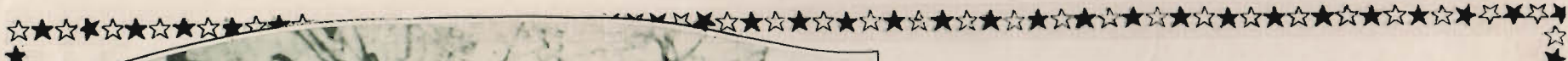
馬賊兵匪の出沒は獨り滿鐵沿線西部方面に限らず、安奉線の東部地方極めて廣汎なる地域に亘つて跳梁跋扈してゐるので、是が警戒には我軍も非常なる苦心を拂つてゐる。寫眞は溪城鐵道の沿線に於て我軍の指揮下にある支那巡警が客車の警備に任じつゝある有樣。

滿洲事變

（其十四）

風雪の中に鐵道を警備する我守備隊

滿鐵沿線四平街方面は既に完全に我軍の勢力下にあるものなるにも拘はらず、尙ほ時として兵匪の襲來を蒙る危險あるがため、我守備隊に於ては鐵路の警備其他に寸時の油斷も出來ないのである。

（左）氷點下三十幾度の酷寒と闘ひつつ、一望茫漠たる滿洲の曠野に立つて、獨り默々鐵路を護る勇士の艱苦を思へば、眼頭おのづから熱し來るものがある。寫眞は滿鐵四平街附近に於て貴き任務に就く我守備隊の一歩哨である

滿洲事變

（其十五）

兵匪討伐の田所大隊と山海關派遣隊長の視察

（右）滿鐵沿線攪亂の爲め錦州政府に操られる兵匪の一團去る十二月中旬馬家寨方面に出現、民家を爆破したる爲め我が獨立守備隊の田所大隊は李家堡の屯營を出でて是が討伐に向つた。

（左）十二月に入つて山海關秦皇島方面の形勢益々險惡を加へ、同地に於ける我が守備隊の勢力甚だ手薄を感じ來つたので、天津駐屯部隊の一部は遽かに山海關出動を命ぜられ同地に急行した。寫眞は該派遣隊長梅野少佐以下幹部將校が、長營附近に於ける我が警備狀況視察の光景である。

滿洲事變

（其十六）

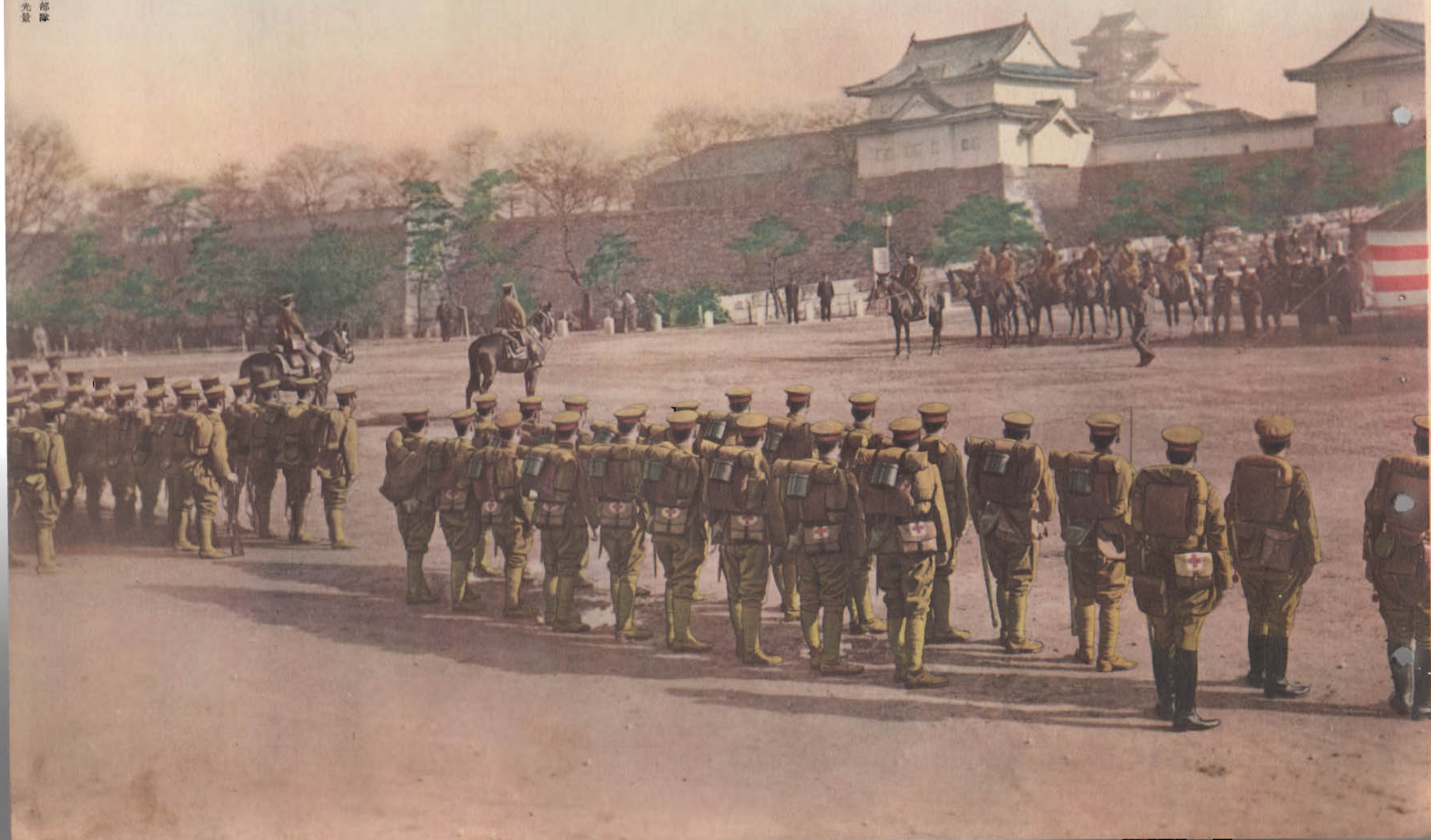
馬賊の爆破した支那民家

十二月中旬、一團の兵賊突如馬家塞方面に現はれ、支那民家を爆破したる急報に接し我が獨立守備隊の一部は同地に急行した

【滿洲事變特輯】

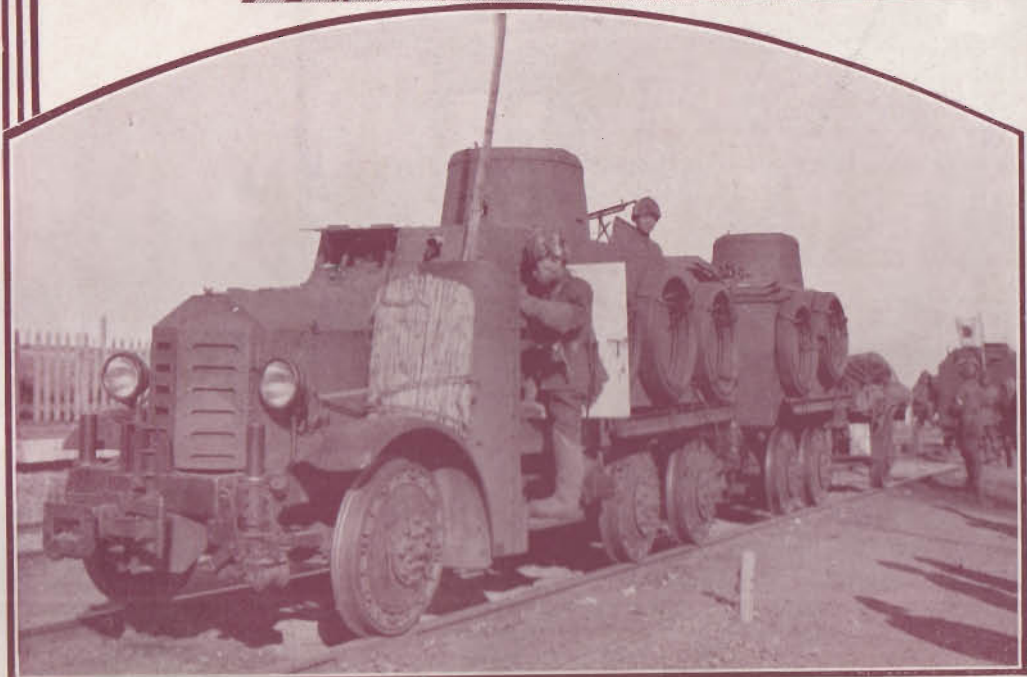
大阪師團派遣隊の閲兵

滿洲へ派遣せらるる衛生部隊

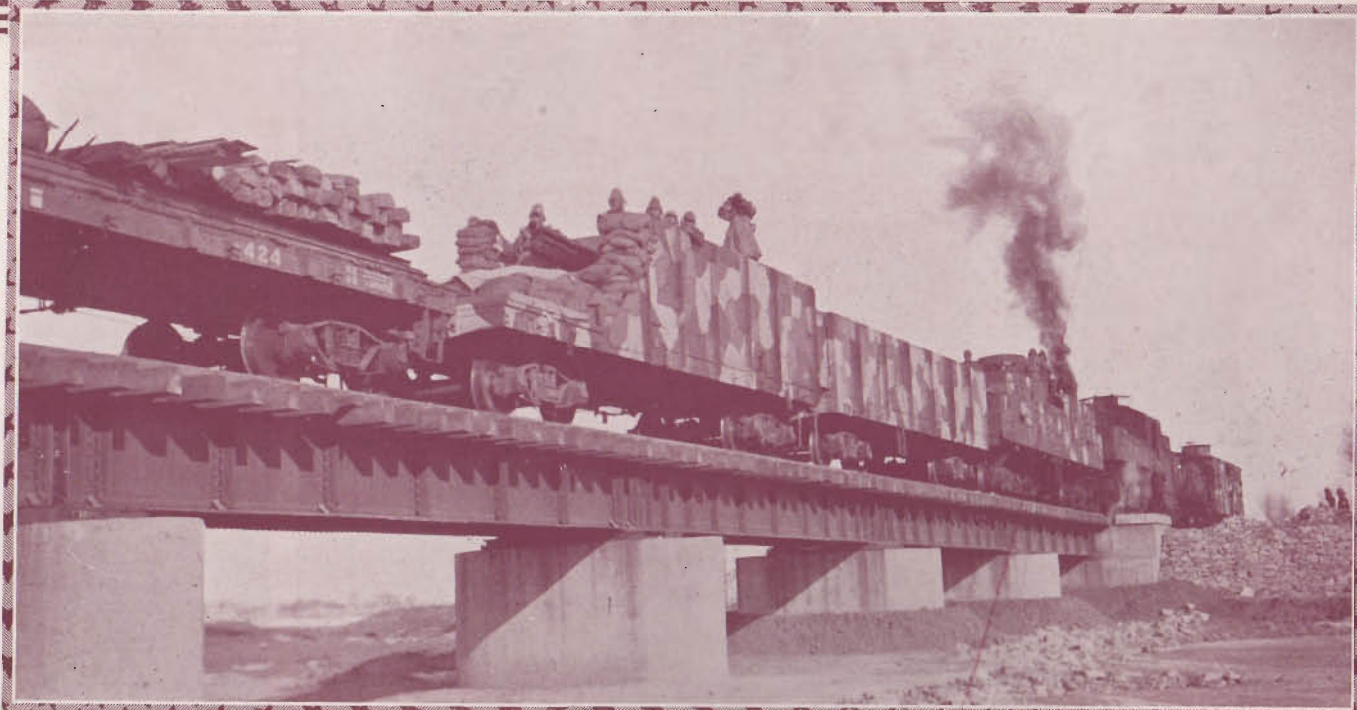
右阿部師團長閲兵訓示の光景

滿洲事變・・・皇軍堂々錦州に入城す

十一月下旬、錦州附近に於ける兵賊大討伐を決行すべく斷乎進撃を開始したる我軍は、一方は白旗堡、饒湯河、打虎山方面の敵を掃蕩して漸次錦州に肉迫し、他方は田庄臺、大窪、盤山、溝帮子を占據して一擧に敵の本據を衝かんとする形勢を示し、大凌河畔に於ける彼我の決戰は目睫の間に迫れる觀があつたが、大勢終に利あらずと見た支那軍は十二月三十日より全線總退却を開始し、錦州に於ける張學良の東北政府も是を撤退して灤州に移すに至つたので我軍は刄に血ぬらずして茲に首尾能く錦州を占據することとなり、軍の先方部隊たる嘉村旅團の一隊は既に一月二日午後二時錦州に入城し、續いて主力は翌三日室師團長を先頭に威風堂々入城した。寫眞は一月三日午前九時十分中島聯隊が錦州の有名なる古城門に日章旗を飜しつつ全軍の威容を張れる光景である。

滿洲事變

多門第〇師團長と山海關守備隊の萬歳及び裝甲軌道車

北に馬占山軍を撃滅したる多門第〇師團は戈を飜して錦州に迫り忽ち是をも掌中に收めた。寫眞は陣中に於ける多門中將（右）山海關の險を扼する我が守備隊が錦州占據の快報に接し萬里の長城角山寺附近に於て萬歳三唱の景。（左上）兵匪討伐に出動して幾多の偉勳を樹てたる我軍の新武器裝甲軌道車である。（同下）（双陽何にて）

滿洲事變

我裝甲列車の活動と中島聯隊の錦州驛到着及嘉村第○旅團長

（右上）北寧線沿道の兵匪を掃滅する一大決心の下に奉天を發したる我が軍は新民以西、柳家屯、白旗堡、饒陽河、打虎山等に出沒する賊を撃攘して十二月末既に錦州に迫つた。寫眞は此の兵賊討伐に大活躍をしたる我が裝甲列車が饒陽河より更に前進せんとするところ。

（同下）嘉村旅團の中島聯隊は一月三日早朝、數個の軍用列車に搭乘して錦州停車場に到着、軍旗を先立て勇ましく入城した。寫眞は錦州驛到着の光景。

（左）錦州城に一番乘りした嘉村第○旅團長。

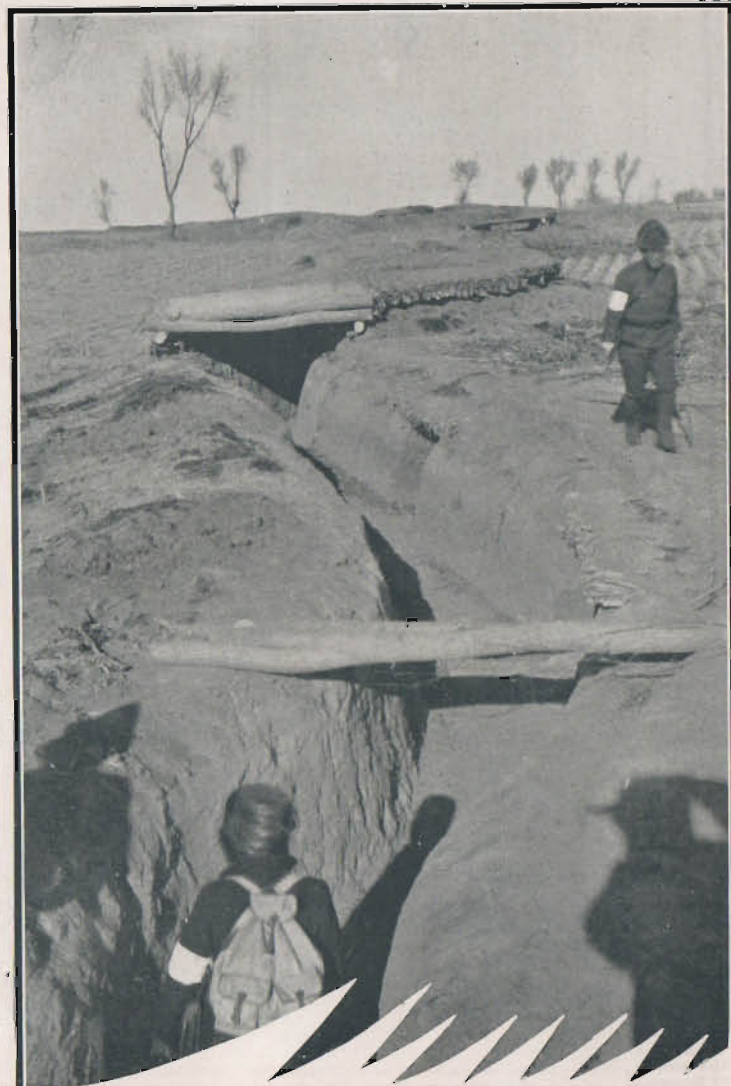
滿洲事變

敵の構築した塹壕と遼河を渡る野砲

（右） 敵が我軍と雌雄を決せんとして構築したる大凌河西岸に於ける大規模の塹壕で、敵は此處に一戰をも交へずして總退却した。

（左上） 支那軍が退却の際爆破したる鐵橋を我軍應急修理しつゝある有樣。

（同下） 我軍の野砲、結氷せる遼河を渡る。

滿洲事變

捕はれた敵兵と機關車を守る兵

（右上） 盤山に於て我軍の爲めに捕はれた敵兵である。

（同下） 空中の我が勇士に日本標識を示す航空地上勤務員の活動振りで、場所は饒陽河。

（左） 酷寒中外套も纏はず營口に於て機關車を守りつつある我兵である。

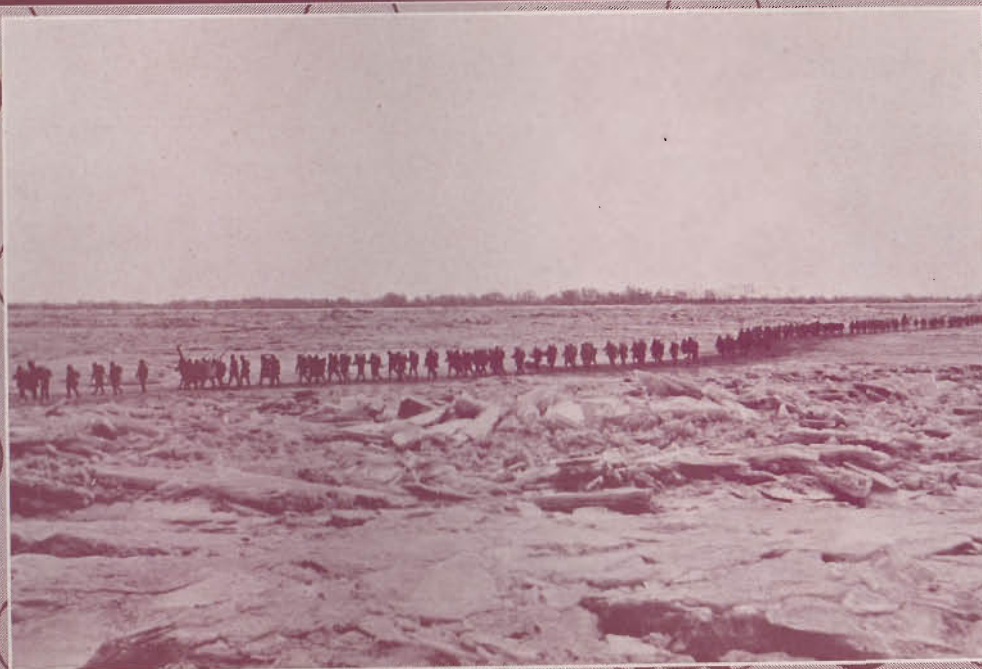
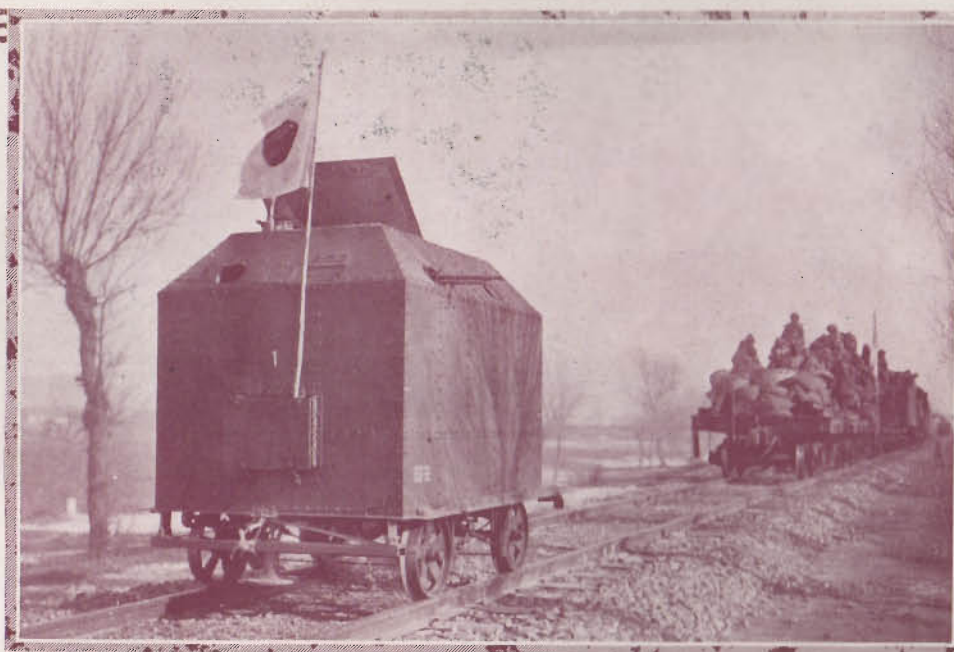
滿洲事變

防彈用の土嚢と遼河を渡る皇軍

（右）北寧線の鐵道に依り戰線に輸送せらるる大量の土嚢である。

（左上）田庄臺民家の屋上に於て敵の來襲を監視する我が歩哨

（同下）軍旗を先頭に結氷せる遼河を强行渡涉しつつある歩兵第〇〇聯隊。

満洲事變

装甲モーターカーと我騎兵隊の錦州入城

（**右上**）常に最前線に在りて目覺ましき活躍を續けたる殊勳の**装甲モーターカー**である。

（**同下**）**サイドカー**に搭じ盤山より前線に向はんとする天野第〇〇旅團長。

（**左**）一月三日午前七時我が騎兵隊堂々錦州入城の光景。

滿洲事變

野戰電信隊と派遣軍の正月

（右）多門師團の先頭部隊は二十九日盤山に入城是を占據した。寫眞は同地附近に活動する我が野戰電信隊である。

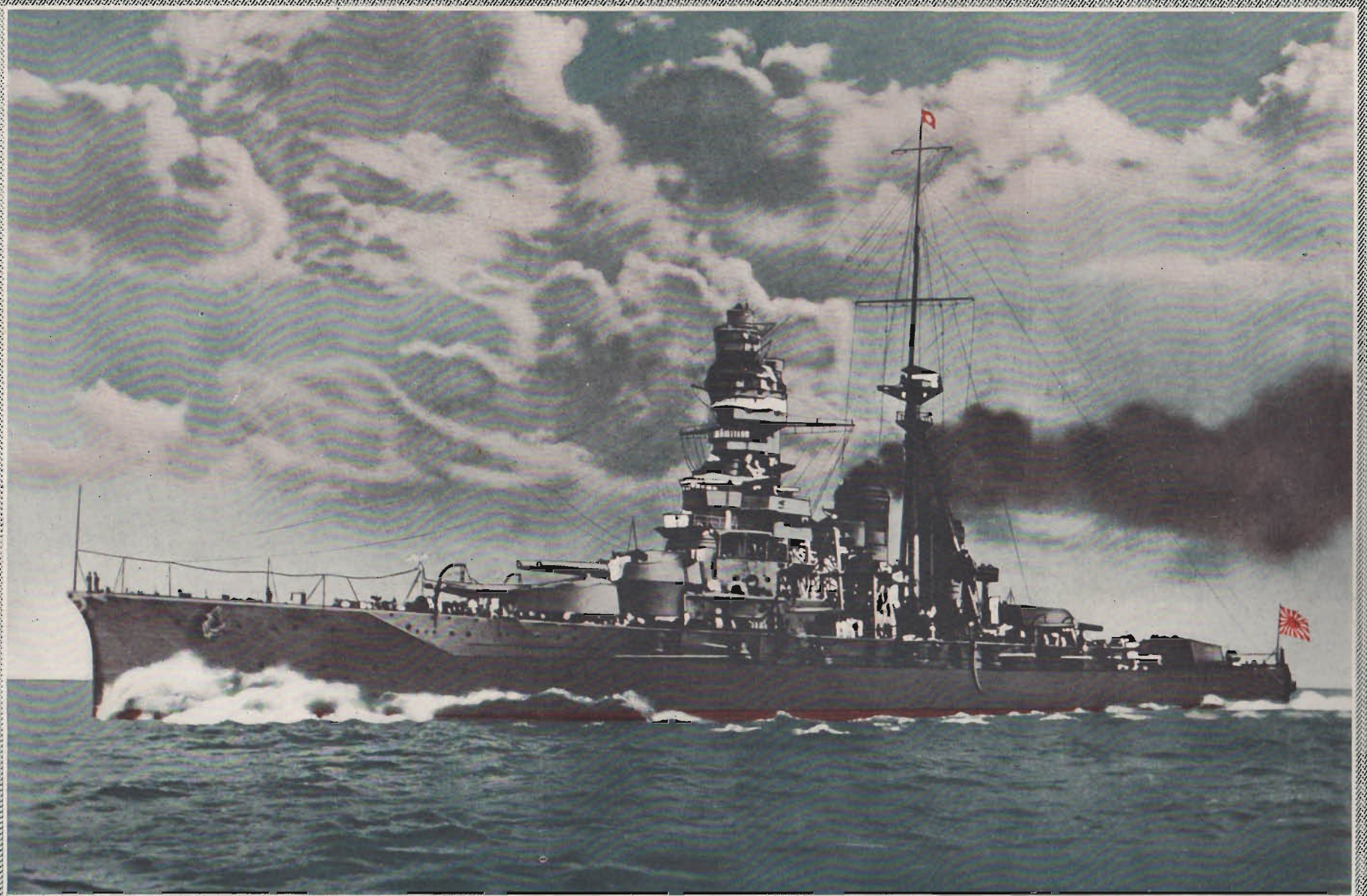
（左上）山海關の守備隊では元旦を迎ふべく兵士等嬉々として祝ひの餅をついてゐる。

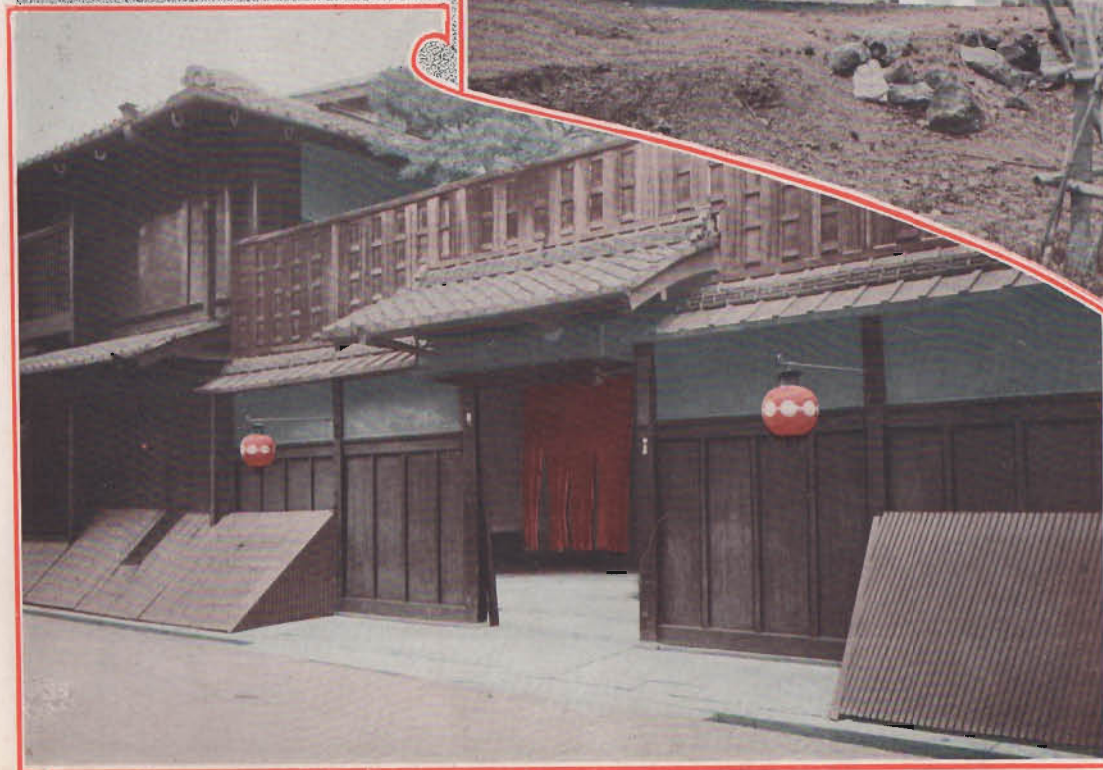
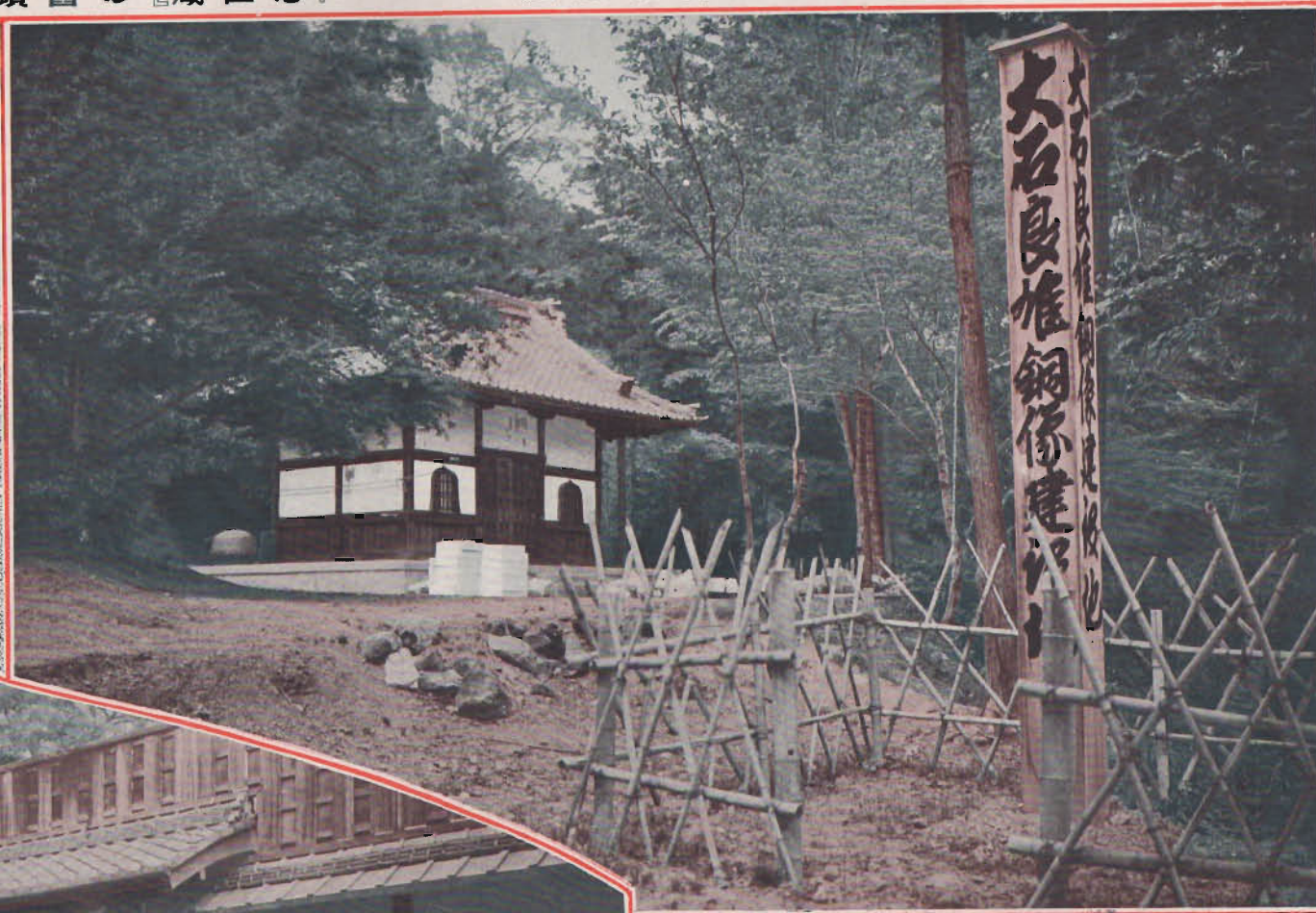
（同下）北支、秦皇島に於て派遣軍の勇士等故國に向て元旦遙拜の光景

日本誠忠十二鑑

（其二）『名和長重、主上を迎へ奉る』

小早川好古畫伯筆

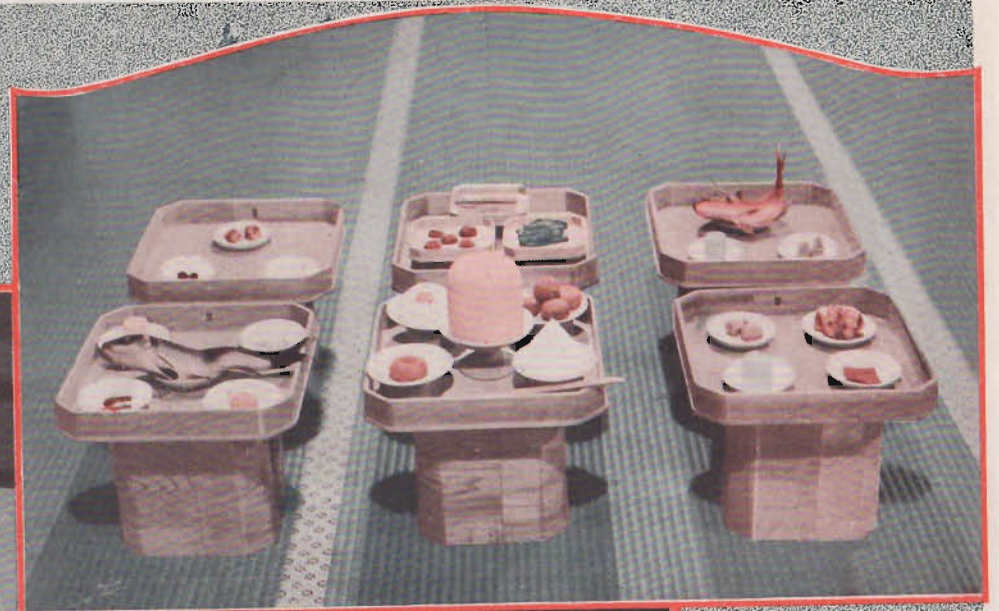
◆◆◆帝國海軍の偉容◆◆◆戰艦「金剛」

戰艦『**金剛**』は明治四十五年四月、英國**ヴイツカース**會社に於て進水したる我が主力戰艦中唯一の外國製軍艦で、大正二年八月竣工したものである。排水量は二萬七千五百噸、垂線間の長さ百九十九米二十一、最大幅二十八米〇四、速力二十七節五である。兵裝は三十六**サンチ**卽ち十四吋砲八門、十五**サンチ**卽ち六吋砲十六門、五十三**サンチ**卽ち二十一吋魚形水雷發射管八門を裝備し、他に八**サンチ**高角砲四門、機關砲三門を搭載してゐる。十四吋砲の能力は最大射程約六里半、高さ約一萬一千尺で砲丸の重量は百八十貫、砲身の重さは二萬五千貫、砲身一門の價は約十五萬圓、一發々射に要する費用は約二千圓、砲一門の威力は小銃四十萬挺、野砲三百五十門に相當するものである。尙乘組員は合計一千三百三十六名で、陸軍平時の步兵約一個聯隊と略同數である。

京洛演劇名所巡遊◆◆◆（其二）「忠臣蔵」の舊蹟二つ

『忠臣蔵』は歌舞伎芝居の代表的なもので昔から是を上演して不入を取つた例しはないとまで言はれてゐるが、是はその脚本が好いのに因ること勿論であるけれども、四十七士があらゆる艱苦に忍從しつつ心を合せて復讐の一念を貫徹したその壯烈極まる事蹟そのものが既に多分に劇的要素を含むでゐるのである。別けても此の一團の統帥大石良雄その人が山科隱棲中に於て一種の**カモフラージユ**政策として日夜を分たず折花攀柳の遊びに耽つた一事は益々以て『忠臣蔵』そのものに劇的氣分を濃厚ならしめ得たのである。寫眞の右上は山科に於ける良雄閑居の邸址で、岩屋寺の境内に在り、その木像堂には四十七士の位牌並に木像を安置してある。又左下は良雄が駄々羅遊びに耽つたといふ京都祇園の旗亭一力樓の表構へであるが、良雄が遊蕩を敢てしたところが、果して此の一力樓であつたか何うかは史家の間にも異説があり今遽かに斷定することは出來ない。

（黒川翠山寫）

◆◆◆時代風俗寫眞小觀◆◆◆（其三）江戸初期武家婚禮式

江戸時代初期の小笠原流古式による武家婚禮式を示したもので、風俗研究會創立二十周年記念として去年十一月二十五日古式禮道研究の道場が研究所で創立された劈頭に擧行されし所である。婿は折烏帽子大紋、嫁はすべらかしで白綸子打掛に同地間着（小袖）帶を着してゐる。他の待上臈介添、女房は根結の髪に服裝は嫁と同じい。但し袖丈は嫁よりも短くなつてゐる。床には奈良蓬萊二重手掛臺、瓶子、置鳥、置鯉を置き、白の水引敷絹が施され、上に鏡が吊されてゐる。今し引渡、打躬、膓煎の膳が出でて式三獻の盃が將に終らんとしてゐるところである。右上の寫眞は婿嫁、待上臈に出した引渡、打躬、膓煎の膳を示すもので、中央の二臺が引渡、右の二臺は打躬、左は膓煎である。（風俗研究所長　江馬務解説）

◆◆先哲の面影とその遺跡◆◇◆（其二）吉田松陰

吉田松陰は天保元年八月四日長州萩の城下松本村に生れた。初めは杉氏、後吉田賢良の家を嗣ぎ長じて四方に遊び多くの奇傑と交つた。松陰その性鋭敏、時事を洞察するの明があり、兼て兵法に精しく古今の史籍獵渉せざるはなかつた。嘉永六年、佐久間象山の門に學び、頗る愛せられたが外交愈〻切なるを見て、遂に攘夷の策を献じ、次で國禁を犯し海外渡航を謀り米船に乗込まんとして捕へられ、一時藩に幽閉さるるに至つた。釋放後、松下村塾に據て子弟を薫陶し、安政五年、幕府の專横を憤り密かに老中間部詮勝を刺さんとして果さず、六年捕はれて江戸に檻致され、小塚ヶ原に斬られた。時に年二十九、その門より高杉晋作以下多くの俊才を出した。寫眞の右は松陰の像、左上は松下村塾で卽ち彼が幽囚された舊宅、同下は松陰を祀る萩町の縣社松陰神社である。

（松島敬楠）

お麗はしき三内親王殿下

宮城内、御兩親陛下の深き御慈愛を受けさせられつつ、常に大奥御團欒の中心とならせられる三内親王殿下には、殊の外、おみ大きく御成育遊ばされ、兩陛下と御揃ひにて御麗はしく昭和七年の新春を迎へさせ給ふたのであるが、照宮様にはお八つ、孝宮様にはお四つ、昨春三月御誕生の順宮様にはお初めのお正月にて亙らせられた。照宮様には此の三月、宮城内に皇子御修學所御造營完成と共に兩陛下の御膝下をお離れ遊ばされて新御殿にお移りの上、春四月、女子學習院で正規の御課程に就かせられることとなる。又孝宮様には最う御無邪氣なお話もお出來になり御姉宮様とお手々をひかせられていつも御睦じくお遊びになり、順宮様にも御成育極めて御順調に、御體重などは御姉宮様方のその御當時よりも優れさせられるほどと承る。寫眞右は照宮、孝宮兩内親王殿下、左順宮内親王殿下である。（宮内省御貸下）

犬養内閣成る

時局重大の故を以て協力内閣を組織すべしといふ安達内相の主張に端を發し、若槻内閣は俄然内部的に統制困難に陷り、十二月十一日遂に總辭職の止むなきに至つた。次で新内閣組織の大命は政友會總裁犬養毅氏に降下し、同十三日政友會内閣は成立を告げ即日親任式が擧行せられた。寫眞前頁の右は犬養新首相、左上、新閣僚の勢揃ひ、中下犬養首相の書。左下中橋内相と令孃、後頁上段右より鈴木法相、大角海相、三土遞相、鳩山文相、山本農相、中央床次鐵相、下段右より高橋藏相、荒木陸相、秦拓相、前田商相である。

犬養首相

新閣僚の勢揃ひ

中橋内相と令嬢

濟時難

犬養毅

犬養首相の書

鈴木法相

大角海相

床次鐵相

三土遞相

鳩山文相

山本農相

前田商相

荒木陸相

秦拓相

高橋藏相

時事小景

（右）參謀總長金谷範三大將辭任したるを以て元帥陸軍大將閑院宮載仁親王殿下新たに御親任遊ばさるることとなり十二月二十三日宮中鳳凰間に於て親補式が行はれた。寫眞は當日御參内の閑院元帥宮殿下である。（左上）本年二月、ゼネヴアに開かるべき軍縮會議に出席する三全權で右より松井大使、佐藤陸軍中將、永野海軍中將。（中下）軍縮全權の一行東京出發に際し、東京驛前に於ける盛んなる見送り（左）貴族院議長德川家達公、任期滿了し更に重任することとなり十二月五日勅任傳達式が行はれた。寫眞は公爵

時事小景

（右上）神宮壁畫、明治大帝觀兵式の圖完成、十二月八日陸軍省に搬入された。寫眞南陸相と筆者小林萬吾畫伯。（同下）北海道、青森縣の凶作地へ聖旨を奉じて出張する侍從子爵黑田長敬氏の上野出發。（左上）高輪御所内に御造營の高松宮新御殿で、建坪八百坪、日本趣味を基調とせる近世式の鐵筋コンクリート造りである（同下）十二月十九日麻布三聯隊の軍旗祭に於ける過般の南嶺の激戰の目のあたりに見る餘興の模擬戰である

時事小景

（右）アメリカの人氣映畫俳優ウイル・ロージヤース氏は十二月四日の夜歌舞伎座を見物し、『土蜘』出演の菊五郎氏と會見した。寫眞の左は尾上菊枝さんの京人形の精。（左上）十二月二十四日横濱入港の龍田丸でアメリカより歸朝した早川雪洲氏。（中下）エチオピア特派使節ヘルイ外相が我陸軍より寄贈品を受けるところ（左下）エチオピア國へ移民事業の開拓といふ重大な使命を帯びて旅立たんとする苦學力行の青年山内正夫君（二六）である

時事小景

（右上）滿洲軍慰問旁々滿蒙建設策に就き現狀視察の重大使命を帶び十二月三十日大船發渡滿の途に上りたる南大將。（中上）十二月二十三日飛行會館に開催せられたる若い新知事夫人連の集り。（同下）近世畫壇の巨人、谷文晁百年祭に際し、上野の府立美術館側に建てられたる文晁碑で十二月十四日除幕式が行はれた。（左）十二月二十日小石川區民有志連主催の鳩山新文相就任祝賀會に出席したる新文相と大滿悅の春子母堂である。

（右）十二月六日子供を背負つて落下傘の實驗を試み美事成功した千葉東亞飛行學校の中田英君である（中上）十二月十七日夜姫路市外北中皮革工場勞働爭議に於ける大亂鬪の跡。（同下）最近竣工したる深川の**ルンペン**一泊所で、敷地は六百四十五坪もあり、三百人分の**ベッド**が用意されてある。（左）若槻內閣の人情大臣小泉遞相の祕書官眞鍋儀十氏も此のところ政權から離れて急に閑散の身となり、徒然の餘り今まで道樂に蒐集した古錢數千枚を部屋一杯に擴げて獨り悦に入つてゐる

1932

屋上庭園

●陸軍**オンパレード**の新年號は一九三二年を**リード**する大作。さすが私の惡口屋も失業しさうです。殊に大附錄は傑出した作品。讀者も是には鼻が高い。その他の色刷物も失敗がなく、二色版は稍々見られる程度、寧ろ單色版の方が**レベル**を上げてやしませんか。**グラビヤ**版が殖ゑたのは編輯良心からか。その**グラビヤ**の餘白に入れた淡い**カット**は結構な試み、今後も研究して貰ひたい。連載ものは毛色の變つたのが面白かつたが、馬鹿に少いやうですれ。御陵を幾度も探しましたよ。（**群馬　新しい讀者**）

▲（**編者**）御說の通り新年號は『陸軍**オンパレード**號』の觀がありました。大附錄は勿論大に自信のあるものでした。**グラビヤ**版を倍加しましたのは內容を豐富にしたいが爲めです。御陵は殘り少くなりましたから欒みに取つておきませう。

●余は本誌大正四年春よりの連續讀者にして恐らく讀者中の元老格を以て自任するものなり。然るに新年號の大繪附錄は正に過去二十年來最大最上の出來榮えにして絕好無二の記念品、天下に新年繪附錄多しと雖も未だ嘗て此くの如きものを見ざるなり。我等愛讀者の喜び何ものにも例へ難し、玆に謹んで我が敬愛する編輯氏へ滿腔の謝意を表す。（**東京本町　一心生**）

▲（**編者**）新年繪附錄は幸ひにして出來榮えよろしく非常な好評を博しました。私の歡びも亦何ものにも譬へ難いものがあります。

●新年號、大元帥陛下の御英姿は實に立派なものでした。構圖も色彩も印刷の調子も何とも言へない上出來でした。早速額に仕立てて永久の家寶といたします。あまりの嬉しさに一書を呈します。終りに編者先生の御多幸を祈ります。（**神戸　吉田生**）

▲（**編者**）難有う存じます。

●私は貴社發行の歷史寫眞を去る大正十四年より愛讀いたしてをります。其後大正天皇の御大葬より今上陛下の御大禮に至るまであらゆる天下の事件を網羅し、今又滿洲事變に關する特輯號を連續發行せられたること是れ愛讀者一同の大滿悅此上もなき次第であります。尙今後も該事變に關する寫眞は成るべく澤山御掲載あらんことを特にお願ひいたします。（**長野縣　壁入豐治**）

▲（**編者**）『滿洲事變特輯號』は本號を以て第四卷となりました。三月號も亦特輯號にいたします。

●『滿洲事變』の爲め歷史寫眞の眞髓ともいふべき彌次喜多君の東海道膝栗毛を最近數ヶ月拜見出來ない事は落膽此上もありません。希くば新年號以降是非共御掲載下され度く、是が無ければ歷史寫眞の骨が拔けてある感じがいたします。而して此の膝栗毛の大團圓も目前に迫りましたが此の次ぎは『富士三十六景』を御連載下さるやう併せてお願ひ申上げます。（**滋賀縣　馬場孝太郎**）

▲（**編者**）滿洲事變は國家的の重大事件で、本誌としては每號全誌を擧げて該事變に關する寫眞を掲載いたしたいのです。然し一方紙數には限りがありますので、止むなく東海道膝栗毛其他のものを休載いたすことになりました。その爲め失望せられてゐられるお方も多數おありのことと存じますが、今後事變の形勢如何に依り編輯方針も漸次舊態に復しますから、しばらく御辛棒を願ひます。

●新年號は未曾有の上出來、殊にその內容に一段の充實を加へ、今更ながら編輯能力の深さを痛切に表現された感がありました。本年度連載の江馬先生の『風俗寫眞小觀』を始め『京洛芝居遺蹟』『先哲の面影と遺跡』など孰れも歷史寫眞らしい試みで學術的にも敎へられるところが多からうと大に期待してをります。（**東京三田　オーロラ**）

▲（**編者**）本年度連載物の內、江馬先生の『時代風俗寫眞小觀』は掲載の寫眞孰れも新たに特寫せられしもの、解說は風俗研究の大家たる先生がその該博なる蘊蓄を傾けられての御執筆に係るものでありますから考學の資として誠に絕好の續物と申すべきです。

●歷史寫眞十一月號の口繪、船川華州先生のお作に就ては、畫伯の言葉が誌してないので、その繪の意味が判らないのです。彼方に富士の秀峰が聳え、旅僧の道行く姿は如何にも歌人か俳人の樣に思はれますが、烏渡お知らせを願ひます。尙、どうか昭和七年度の表紙繪も美人畫を掲せて頂きたい。（**大阪　恒秋**）

▲（**編者**）あなたは豫てから繪がお好きで、そのお名前も恒秋とありますから、私は直ぐに大阪の恒富畫伯を聯想いたします。何は兎もあれ、あなたにはあの繪が西行法師といふことは疾くにおわかりのことと直感いたしてをります。說明を掲げなかつたのは勿論私の落度ですが……。

●神宮競技に世界的新記錄を作つた織田、南部兩氏の勇姿が十二月號に掲載せられなかつたことを甚だ遺憾に思ひます。彼れ等兩氏の作つた世界記錄は永遠に歷史上に記念するのが至當と思ひます。又、早慶戰の寫眞は應援ぶりばかりで是もうんざりします。（**廣島　スポーツ狂**）

▲（**編者**）織田、南部兩氏を載せなかつたのは何とも申譯けがありません。編輯後に氣が付き『しまつた』と思つたのでした。

世界日誌

自昭和六年十二月六日
至昭和七年一月五日

◇十二月◇

（六日） 支那南京政府外交部長顧維鈞氏は今回同地に於ける學生團の騷動の餘波を蒙り、軟弱外交の痛烈なる攻擊を受け身邊の危險をさへ感ずるに至りし爲め、遂に辭職の決意をなし蔣主席の許へ辭表を提出したり。

（七日） 奉天の我駐屯軍新城子方面の馬賊團を討伐し、一方我爆擊機は今朝來出動、空中より兵賊團を爆擊大損害を與へたり。

（八日） 獨逸大統領**ヒンデンブルグ**元帥は、各種物價及び俸給家賃一般債務等に亙つて强制的引下げを要求し廣範圍にわたり一種の經濟國家管理を行ふと同時に國內の不安動搖を防止する爲めに治安機關の非常活動を規定する新制緊急令に署名したり。

（九日） 錦州軍の遼河西岸進出に伴ひ別働隊は著しく活氣を呈し來り、その數四千に上り、白旗堡及び公太堡方面を襲擊せんと企圖し、奉天の西方一帶危機に瀕するに至る。

（十日） 國際聯盟理事會第三回會議を閉づる最終公開會議は本日午後四時四十二分**パリ**なる佛蘭西外務省時計の間に於て開會、我が芳澤代表は決議案受諾を表明すると同時に滿洲に於ける馬賊討伐に關する留保を宣言したり。

（十一日） 協力內閣を主張して下らざる安達內相は若槻首相よりの自決慫慂を拒否し一蓮託生ならば辭職する旨を明答したる爲め、若槻內閣は遂に總辭職を決行することとなり、首相は本日夕刻宮中に參內、天皇陛下に拜謁仰付けられ、閣內不統一の責を負ひ骸骨を乞ひ奉る旨の辭職理由を奏上したる後、辭表を闕下に捧呈したり。

（十二日） 昨日、宮中より御電話を賜りたる興津別莊滯在中の西園寺公は、時局の重大性に鑑み、本日午前坐漁莊を出でて上京、宮中に參內一且退出駿河臺の自邸に入り、政友會總裁犬養毅氏を招致し熟談の末、後繼內閣首班に改めて犬養氏を奏薦したり。

（十三日） 昨十二日、新內閣組織の大命を拜したる政友會總裁犬養毅氏は、卽刻閣員の詮衡に着手し、本日午前三時新閣僚の顏觸を決定、午後二時宮中に於て親任式を擧行せられたり。

（十四日） 犬養新內閣は成立卽時金輸出禁止を斷行し、續いて本日緊急勅令を以て兌換停止令を公布執行したる爲め、財界に及ぼす影響忽ち甚大となり、株式商品各市場は大混亂を呈し、遂に立會中止の止むなきに至り、東株市場は向ふ三日間立會を休止することに決定したり。

（十五日） 來る二月、瑞西**ゼネヴア**に於て開催せらるる軍縮會議に參列すべき我が全權中、佐藤大使、松平陸軍、永野海軍兩中將の三全權、並に隨員の一部は本日午前九時東京驛發、晴れの旅程に上りたり。

（十六日） 錦州方面に於ける張學良麾下の正規軍は着々戰備を固め同方面の風雲益々險惡となり、到底彼我の一戰は兎かれ得べからざる形勢を呈し、或は二十五日前後全軍に對し總攻擊令を下す模樣なりとの報あり。

（十七日） 帝國陸軍に於ては時局の重大と人事行政の現狀とに鑑み、金谷參謀總長の後任には大參謀總長主義に則り閑院元帥宮殿下を同總長に推戴し奉らんとの意嚮あり、金谷總長、荒木陸相等屢々宮邸に伺候し殿下の御內意を奉伺したる結果、本日に至り殿下には荒木陸相を宮邸に召させられ御內諾の御意思を御表明あらせられたり。

（十八日） 議會の解散を見越し現內閣の陣容を整備する地方長官の大更迭は愈々本日決定發表せられたるが前內閣當時より異動せざるものは一道五縣にして他の四十三府縣は悉く更迭せられ、馘首せられしもの實に三十四名に上りたり。

（十九日） 奉天以北滿鐵線西部地方卽ち八面城昌圖、法庫門一帶の地に蟠居する支那兵賊の徹底的討伐は森〇〇隊司令官指揮の下に今曉來一齊に開始せられたり。

（二十日） 前陸軍大臣南次郞大將は滿洲軍の指導聯絡、併せて勇戰軍隊の實情視察更に滿洲建設等の重大任務を帶び、本日午後十時四十分大船驛發にて西下、一路奉天に直行せり。

（廿一日） 政府は北海道青森縣に於ける稀有の凶作救濟の目的を以て右兩地に於ける政府所有米中整理を要するもの六萬九千九十石を各市町村を通じて拂ひ下ぐることとなり、その代金は一ヶ年延納とする案を決定したり。

（廿二日） 關東軍司令官本庄中將は、本日、遼西の匪賊に對する徹底的討伐の已むなき所以を聲明發表したり。

（廿三日） 第六十議會は本日を以て召集せられたるが、衆議院に於ては劈頭先づ議長選擧をなし民政黨中村啓次郞氏當選、次いで副議長の選擧を行ひ同黨増田義一氏當選したり。

（廿四日） 駐日米國大使**フオーヴス**氏は本國政府の訓令に基き本日正午首相官邸に犬養兼攝外相を訪問して、日本の錦州不占據の保障を求むる趣旨を傳達したるが、是と同時に英佛兩國大使よりも同樣趣旨の通牒提示せられたり。

（廿五日） 露都**モスクワ**に於ける某國外交官は日露兩國々交破壞の目的を以て我が駐露大使廣田弘毅氏を暗殺せんと計畫しゐたるが、幸にしてその陰謀未然に發見せられたる旨、勞農當局より發表せられたり。

（廿六日） 樞密院顧問官缺員六名の內、海軍大將有馬良橘、前司法大臣原嘉道の二氏先づ同顧問官に親任せられたり。

（廿七日） 南京政府の特別外交委員會は本日緊急會議を開き政府より國際聯盟理事會に對し滿洲に於ける事態を詳報すると共に、日本軍の錦洲進擊を阻止するに有効なる措置を執ることを要求せしめたり。

（廿八日） 田庄臺方面兵賊討伐の我軍は士氣益々振ひ、猛進又猛進遂に本日大窪に入城、敵は散を亂して盤山方面に潰走す。

（廿九日） 昨日大窪に入城したる多門第〇師團の主力は本日午前八時一齊に行動を開始し、各所の敵を掃蕩しつつ前進を續け同日午後二時裝甲自動車を先頭に我が先頭騎兵隊は遂に盤山を占據し次で午後四時〇師團司令部も入城す。

（三十日） 張學良は本日午後八時錦州全軍に對し關內總撤退の命令を發したるが、軍の撤退と共に錦州政府は一先づ灤州に移轉するものと觀測せらる。

（卅一日） 多門第〇師團並に嘉門第〇旅團の全兵力は本日午後二時四十分までに全部溝帮子を占據入城し、城頭高く日章旗を揭げたり。

◇一　月◇

（一日） 聖上陛下には本日午前五時半黃櫨染御袍を召され四方拜の御儀を行はせられ、次で宮中三殿に於て歲且祭を御執行、午前八時晴御膳に就かせ給ひたり。

（二日） 我軍の先鋒部隊嘉村旅團山縣大佐の卒ゐる第〇〇隊は本日午後二時血ぬらずして錦州を占據し、威風堂々入城したり。

（三日） 明治十五年一月四日畏くも明治大帝陛下が陸海軍人に勅諭を下し給ひしより本年は正に滿五十年に相當するを以て、本日陸海軍兩省に於て記念式を擧行し、此夜東鄉元帥は八十六歲の老軀を起し**マイク**の前に起つて全國民に對し所感を陳べ多大の感銘を與へたり。

（四日） 錦州を占據したる室師團は、天氣晴朗滿洲の野とも思へぬ小春日和の中を堂々入城式を擧行したり。

（五日） 印度に於ける反英運動俄然熾烈となり、國民的一大決戰に勇躍出征を申出たる國民會議派義勇軍の數旣に一萬に僉れりと稱せらる。

本號に限り一部定價　金六拾錢

歷史寫眞第貳百貳拾五號（每月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年一月二十五日印刷納本
昭和七年二月一日發行

定價送料共一部　金五拾錢
朝鮮、滿洲、樺太、臺灣　同　金六拾錢
其他外國　同　金八拾錢

編輯兼發行人　東京府下代々幡町笹塚一二三〇　多田鐵雄
印刷所　東京市小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社
發行所　東京市神田區千代田町二八　歷史寫眞會
本誌取扱所

（電話神田六五七）（振替東京三四八二九）